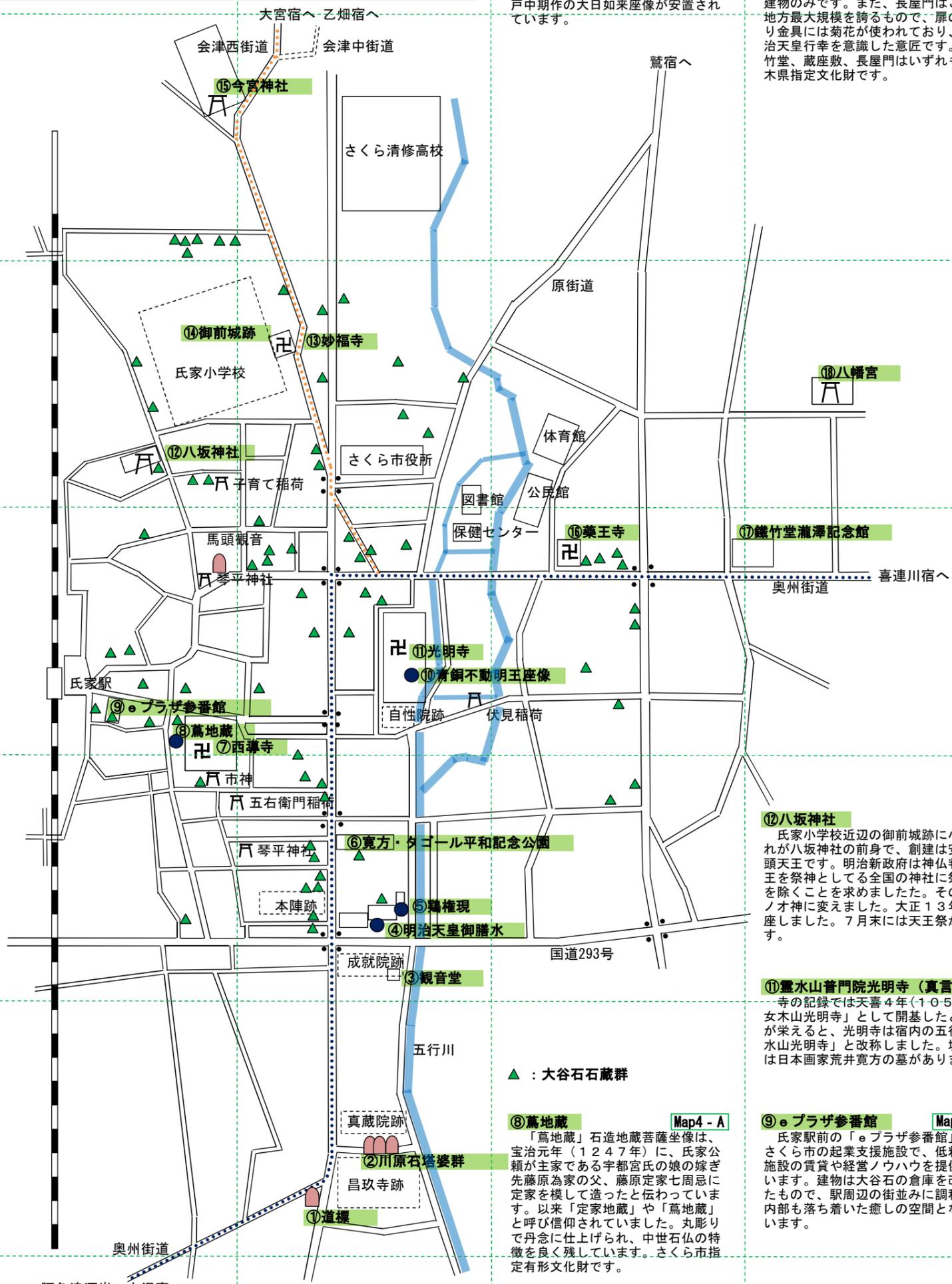


氏家市街地MAP

氏家は古くから交通の要衝の地でした。古代東山道、中世奥大道が通り、江戸時代には奥州道中の宿場町として、また鬼怒川の水運を利用し阿久津河岸から江戸への廻米の集散地として、会津西街道、会津中街道、原街道などの脇街道も整備され、関東と奥州を繋ぐ重要地点として賑わっていました。明治30年、当時の日本鉄道が宇都宮・矢板駅間のルート変更を行い氏家駅が開設されました。氏家駅を降り立った人々の中には、喜連川の奥さんの実家を訪ねる野口雨情や、同じく喜連川の友人高塩青山を訪ねる若山牧水、氏家の句会に訪れた河東碧梧桐の姿があります。街中には、穀物貯蔵用の大谷石の蔵が点在しています。氏家に限って数多いわけではありませんが、市街地だけでも、およそ100棟は数えられます。柔らかで温かい風合いが大谷石の魅力で、石蔵は氏家の景観の一つの特徴といえます。



⑩八幡山一条院薬王寺（真言宗智山派） Map3 - C
薬王寺は古桜野の古屋敷に、室町時代初期の応永31年（1424年）中興開山されたと伝わる古寺です。勝山城の前衛であった桜野村は、相次ぐ戦火にみまわれ、薬王寺の事跡も6世まで全く残っていません。奥州街道が整備され桜野村の移転とともに、薬王寺も現在地に移転しました。現在の本堂は、文政8年（1825年）に造営されました。本堂にはさくら市指定文化財の、江戸中期作の大日如来座像が安置されています。

⑪鐵竹堂瀧澤記念館 Map3 - D
瀧澤家は明治時代、第四十一銀行の設立や那須野が原開拓などに尽力しました。当主瀧澤喜平治の雅号「鐵竹」にちなんで名づけられた鐵竹堂は、明治25年、氏家町で陸軍の大演習が行われた時に、瀧澤家が明治天皇の休息所となり、これに備えて新築したものです。隣接する蔵座敷は総2階建ての土蔵で、屋根中央部に洋風望楼が設けられています。当時県内にも同様の建物が多数造られたが、現存するのは唯一この建物のみです。また、長屋門はこの地方最大規模を誇るもので、扉の飾り金具には菊花が使われており、明治天皇行幸を意識した意匠です。鐵竹堂、蔵座敷、長屋門はいずれも栃木県指定文化財です。

⑫八幡宮 Map2 - D
八幡宮の創建は不詳ですが、別当であった薬王寺の開基が応永31年（1424年）であることから、同時期の室町時代中期に勧請されたと考えられています。当初は八幡川の畔にあったが、寛永年間に現在地に遷宮されました。現在の本殿は文政9年（1826年）に再建されたもので、さくら市指定文化財です。いたる所に施された彫刻群は、近世寺建築の最盛期のもので、精緻さと迫力を兼ね備えています。江戸時代後期の社寺建築として優れているとともに、文献などから、上棟式、遷宮式典の様子など、諸記録が明確に分かる建物として貴重です。

⑬今宮神社 Map1 - A
今宮神社は、康平3年（1060年）に素鳴尊を勧請し、氏家郷の南端に創建したのが始まりと伝えられています。中世には氏家氏の崇敬社となり、宇都宮大明神を合祀し庇護されます。正安2年（1300年）現在地に遷宮され、社殿の再建と、境内の整備をし氏家24郷総鎮守として広く信仰されました。南北朝時代には庇護者を失い社殿、境内共に縮小されましたが、民衆の信仰は篤く、その後も改修、再建を重ね現在に受け継がれています。本殿は寛文3年（1663年）造営の当地方最古の建物で、江戸時代初期の建築形式を伝えており貴重です。楼門は文化8年（1811年）に造営されたもので、装飾彫刻は少ないが端正な建物です。本殿、楼門共に、さくら市指定文化財です。また、境内の樹齢700年の大イチョウは、栃木県銘木百選であり、さくら市指定文化財でもあります。

⑭御前城跡 Map2 - A
御前城は、鎌倉時代初期に氏家公頼が、那須氏との最前線地に築いたもので、勝山城が築城されるまで公頼の居館として使われていました。氏家小学校の校庭東奥に土塁の一部が残されています。

⑮正本山妙福寺彰久院（日蓮宗） Map2 - B
妙福寺は、天保2年（1831年）草川地内に一字を建て、法華経信仰の道場としたことが始まりと云われています。明治28年（1895年）、御前城跡の弁天山の一角に教堂・祖師堂（祖師とは宗祖日蓮上人）を建立し修業の場としていましたが、次第に信者が増加し、布施の拠点として寺院への格上げが必要となりました。しかし、明治新政府の方針で、新規寺院の創設は困難な時代でした。そのため伊豆七島の無住であった寺院を移転し、大正15年祖師堂跡に真如山海岸寺が建立されました。昭和2年、正本山妙福寺彰久院と改称しました。

⑯八坂神社 Map2 - A
氏家小学校近辺の御前城跡に小さな社、天王社があったと伝わっています。これが八坂神社の前身で、創建は安永3年（1774年）、主祭神は疫病を防ぐ牛頭天王です。明治新政府は神仏判然令で仏教用語で神を呼ぶことを禁じ、牛頭天王を祭神とする全国の神社に祭神をスサノオ神に変えるか、祭神から牛頭天王を除くことを求めました。そのため、社名を八坂神社と改め、祭神を一時スサノオ神に変えました。大正13年学校校地拡張のため、現在地に本殿を新築し遷座しました。7月末には天王祭が行われ、9地区から神輿・山車が繰り出します。

⑰霊水山普門院光明寺（真言宗智山派） Map3 - B
寺の記録では天喜4年（1056年）に、勝山城近くの美女木地内に山号を「美女木山光明寺」として開基したと伝わっています。奥州街道の開通により氏家宿が栄えると、光明寺は宿内の五行川の畔、清水の湧く地に移り、その山号を「冷水山光明寺」と改称しました。境内には青銅不動明王座像が、また、境内墓地には日本画家荒井寛方の墓があります。

⑱e プラザ参番館 Map3 - A
氏家駅前の「e プラザ参番館」は、さくら市の起業支援施設で、低料金で施設の賃貸や経営ノウハウを提供しています。建物は大谷石の倉庫を改修したもので、駅周辺の街並みに調和し、内部も落ち着いた癒しの空間となっています。

⑲青銅不動明王座像 Map3 - B
光明寺境内に露座している青銅不動明王座像は、宇都宮の鑄物師戸室卯兵衛によって、宝暦9年（1759年）に鑄造されました。一方、この鑄造木型が奇跡的に残され、木造不動尊像として信仰されていました。この奇木造不動明王座像は、所在を転々とし、現在はさくら市ミュージアム「荒井寛方記念館」に安置されています。二体とも栃木県指定文化財です。

⑳塩谷山地蔵院西導寺（浄土宗） Map3 - A
西導寺は建久2年（1191年）に氏家氏の始祖、氏家公頼が開山したと云われる古寺です。本堂は天明6年（1786）の再建で、桁行5間、梁間5間のいわゆる「五間堂」です。弥勒堂は延宝元年（1673年）の建造で、室内には県指定文化財の宝冠釈迦如来坐像が安置されています。種やかで少年のような顔立ちのため、人々には弥勒菩薩と映り民衆から「嵐除の弥勒さん」と呼ばれ、堂の名の由来もここにあり。また、境内には、鎌倉時代末期から戦国時代の造立とみられる、端正な三基の五輪の塔があります。本堂、弥勒堂、五輪の塔は共にさくら市指定文化財です。

㉑鶏権現 Map4 - B
鶏権現の本源は水分神信仰であり、清水の湧く所や水源などに祀られた水神のことです。この鶏権現は小児の咳に不思議な効き目があり、咳の流行期には次々とご神体が廻され、遠くは筑波山方面まで運ばれました。ご神体は25cmほどの二本の丸棒で、上部に男女の顔面が彫られている。水神から作神・養蚕の神となり、それが小児の咳病氣から子育て・子孫繁栄の神となり、さらに権現という仏とが習合して「鶏権現」になりました。現在も信仰され祭事が行われています。

㉒寛方・タゴール平和記念公園 Map4 - B
さくら市氏家が生んだ日本画の巨匠・荒井寛方の生誕地に造られたこの公園は、日印文化交流に貢献したアジアで初のノーベル文学賞を受賞したインドの詩聖ロビンドラト・タゴールと寛方の二人を顕彰して造られました。二人の親交は深く、寛方はタゴールの招きで日本画の教授としてインドに赴いています。

㉓道標 Map5 - B
奥州街道と大谷街道との分岐点に、享保年間ものとみられる道標があります。「右江戸海道」「左水戸かさま・下だて・下づま」と刻まれています。ここが氏家宿入り口で、木戸番がありました。

㉔川原石塔婆群 Map5 - B
氏家地方独特の石塔婆で、鬼怒川産の河原石を加工せずに、板碑同様二条線や種子を刻んであります。これを板碑として区別して「河原石塔婆」と呼ばれています。追善供養などの目的で作られたもので、板鎌倉期から戦国期にかけて造立されました。6基のうち4基に14世紀前期の紀年銘があります。

㉕観音堂 Map4 - B
堂内の千手観音立像（さくら市指定文化財）は、矢板市寺山の千手観音とは姉妹観音で、姉にあたることから、俗に「あねさま観音」と言われています。

㉖明治天皇御膳水 Map4 - B
黒須病院の玄関先にある湧水は、明治9年（1876年）6月、明治天皇東北巡幸で氏家に休息した折、飲料水や調理用水として選ばれました。このことを記念して「御膳水」の碑が建てられました。今でも多くの人が水を汲み持ち帰っています。